



新年あけましておめでとうございます

新年明けましておめでとうございます。

御家族揃って輝かしい新年をお迎えのことと存じます。

11月の愛知分会第21回定期大会において、今年度も執行委員長を仰せつかりました松原です。一年間よろしくお願いいたします。

昨年は正月早々、能登半島を襲った大地震により北信越の仲間も被害を受けました。先ず私たちにできることはと考へ、義援金を呼びかけましたところ、「他人事ではない！」と多くの組合員のみなさんに快く応えていただき本当にありがとうございました。

我が分会の組合員も高齢と病状悪化により、集合しての会議もままならず、組合活動も特定の人に限られていて、活動の情報が共有できていないのが現状です。この状況を打破すべくスマートホン・パソコンを使ったオンライン会議の立ち上げを行い、皆さんとのコミュニケーションが取れるようにしていきたいと思ひます。

また、本年度は組織拡大における相談会を、静岡にて精力的に進めることになるかと思ひます。もちろん愛知でも行いますが、組合員の方に協力要請が有りましたら快く協力をよろしく願ひします。

11月の第21回定期大会において、約20年にわたり愛知分会の書記長として活躍されました石村さんが退任され、後を継いで古里さんが書記長となりました。

また大会で新たに認定になった方や、役員になられた方も紹介されました。一人でも多くの組合員さん、ご家族の方たちと一緒に分会を盛り上げていきたいと思ひますので願ひします。

今の世の中、毎日が大変厳しい環境の中での生活を強いられていますが、「人生は一度きり」です。残された人生を楽しく過ごしていきましょう。



旧落合トンネルも岩盤硬くて大変だった 長野県大鹿村へトンネル現場調査

12月20日(金)長野県大鹿村で建設中のトンネル現場調査があり愛知分会からも参加しました。

場所は大鹿村落合にある落合トンネル(仮称)で、中央自動車道の松川インターから1時間くらいの所です。現場までは大嶽山と馬原山の間、険しい山道は細く、片側が崖になっていて、大鹿村が近くにつれて、何台もの大型トラックとすれ違うと冷や冷やするような道でした。



現場到着後、トンネル事務所で工事の説明を受けました。昔つくられた落合トンネルで落石事が頻出した為、新たなトンネルを掘り落合トンネルと連結させる計画とのこと。この元々あったトンネル工事に昔、携わったという長野分会の黒田委員長が「当時も岩盤が硬くて大変だった」と話されていました。

工事中のトンネル内は予想よりも明るく、身長よりも大きなタイヤのついた重機が、何台も置かれており、切羽に近づくにつれ作業の騒音で案内

の音が聞こえなくなり、火薬を装填する孔を掘削している重機が岩盤を砕く轟音が響いていました。





みんなのひろば

クリスマス平和宣伝

クリスマスの近づいた12月22日、金山総合駅南口広場において、参加者がサンタになって平和宣伝を行いました。



世界でも日本でも『戦争か平和か』が鋭く問われ、国際情勢の厳しさが増す中で、広島と長崎の被爆者による草の根運動である日本被団協が、ノーベル平和賞受賞したことは極めて意義深いことです。「核のない平和な世界を子供たちに手渡しましょう！」と呼びかけました。



チラシを渡しながらかしつけてくる人がありました。「何でも値上がりして、クリスマスに子供にケーキを買ってあげることができない！」という若いお母さん。スーパーに正月用品が並び始めたけど高くて買えない。年金暮らしたから！」という高齢女性など、物価高騰に対する悲鳴が聞かれました。

1月の予定

- 6日 愛労連新春宣伝
- 11～12日 県本部春闘討論集会
- 12日 川崎振動病学習会
- 17日 分会第80回執行委員会
- 25日 浜松相談会
- 26日 愛労連臨時大会

ご案内

※ 第80回執行委員会 1月17日(金)
瀬戸文化センター 32会議室 13:00～

日本被団協ノーベル平和賞受賞

10月11日、被爆の実相と核兵器の廃絶を世界に訴え続けてきた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル賞受賞が決まりました。

選考委員会は、受賞の理由について「体験を語ることで核兵器の使用に警告を発し、世界中で反対する声を広めるのに貢献してきた」と長年にわたる被爆者の貢献を高く評価しました。

ただ、受賞の背景には世界で核使用の危機が高まっている現実があります。日本政府は、被爆者をはじめとする民間の戦争被害者に国家補償をしていません。被爆者は、原爆症や被爆者の認定基準を狭めようとする国と、今も訴訟を続けています。

授賞式に出席した被爆者の代表者は、「オスロの街は受賞をたたえる旗や看板があちこちに設置され、遊園地の観覧車にも被団協のシンボルの折り鶴マークが掲げられていた。しかし日本では祝福ムード一辺倒にはなっていない。日本の方が冷ややかな感じ」と被爆者は語りました。

被爆者は「被爆80年となる2025年は核兵器の非人道性を世界に広げる大運動をやりたい」「戦争による国民犠牲をつくらないようにしないとけない」と語りました。

「核抑止力」の強化が公然と語られる今、核兵器廃絶を求める声が世代を超えて広がっています。

ノーベル平和賞はスウェーデンの化学者アルフレッド・ノーベルの遺言によって創設された。

世界で最も権威ある賞の一つで、選定条件は「国家間の友愛、常備軍の廃止または削減、平和会議の開催・促進のために最大または最善の仕事をした人」とされる。

